

NEC ネットズエスアイ株式会社

SAP Cloud ERP 導入事例

AI-Readyな経営データ基盤をSaaSで実現 NECグループによるSAP Cloud ERP導入事例

事例のポイント

課題背景

- ・データドリブン経営の実現に向け業務プロセス改革とシステムプラットフォームの再構築が必要だった
- ・20年以上経過した基幹システムの属人的な保守運用とコストの拡大を解消したかった
- ・部門ごとに分断された業務・データ管理により、業務プロセスおよびデータの標準化ができていなかった

成果

・データドリブン経営を支える標準化基盤を確立

「SAP Cloud ERP (SAP S/4HANA Cloud Public Edition)」導入により、業務・データ標準化を進め、データドリブン経営の基盤を整備した

・運用負荷と維持コストを軽減

SaaS型ERPによってインフラ管理やセキュリティ、バックアップといった保守運用が不要となり、運用負荷と維持コストが軽減され、市場変化に対するタイムリーな法規制にも対応できるようになった

・「Fit to Standard」徹底で業務・データを標準化

標準機能に業務プロセスを適合させる運用を徹底し、業務プロセスとデータの標準化を実現した

・自社導入で得た知見を幅広いお客様に還元

国内事例が少ない「SAP S/4HANA Cloud Public Edition」の導入・運用で得た知見を、クライアントゼロおよびBluStellar※としてお客様に還元できるようになった

※BluStellar (ブルーステラ) は、お客様の変革を成功へ導く価値創造モデルです。NECが誇る先進テクノロジーと積み上げてきた知見をもとに、豊富なDX人材が戦略策定から実装までをEnd to Endでご支援します。

導入ソリューション



SAP S/4HANA Cloud Public Editionによるデータドリブン経営
SAP Cloud ERP (SAP S/4HANA Cloud Public Edition) とBIツールの活用により、複数の領域を横断した経営データをダッシュボードで可視化。リアルタイムなデータドリブン経営を支援する



NEC ネットズエスアイ株式会社
取締役執行役員専務
兼 CDO 兼 CIO
ビジネス変革統括本部長

菊池 惣



NEC ネットズエスアイ株式会社
ビジネス変革統括本部
経営システム本部
統括マネージャー

池内 俊勝



社 名 NEC ネットズエスアイ株式会社
本社所在地 東京都港区芝浦3-9-14
創 立 1953年12月1日
(設立: 1953年11月26日)
資 本 金 131億2,200万円
(2026年3月31日現在)
売 上 高 3,960億円(2026年3月期: 連結)
従業員数 7,576人(2026年3月31日現在: 連結)
事業内容 DXソリューション事業、システムズエンジニアリングサービス事業
U R L <https://www.nesic.co.jp/index.html>

導入前の背景や課題

経営データをリアルタイムに把握できる基盤が必要に

NECグループのネットワークソリューションの中核を担うNECネットズエスアイ。同社は中期経営計画の一環として、データドリブン経営を実現する業務プロセス改革とシステム基盤の再構築に取り組んでいます。「当社は中期経営計画の一環として、データドリブン経営を実現する業務プロセス改革とシステムプラットフォームの再構築を推進中です。従来のような過去実績の報告ではなく、リアルタイムな経営データを活用することにより、業績予測・事業投資などの経営判断を行う一方、それを『情報の民主化』として全社員で共有しながら事業展開して

選択のポイント

SaaSを前提として次期基幹システムを選定へ

NECネットズエスアイが次期基幹システムに選定したのは、SAPのクラウドERPサービス「SAP S/4HANA Cloud Public Edition」でした。SAP S/4HANA Cloud Public Editionは、各業界で培われたノウハウをもとに、効率的な業務運営を実現するテンプレートやガイドラインの「業界ベストプラクティス」で構成されています。導入時は、これらの事前に用意されている各業種のベストプラクティスのなかから、必要な機能を組み合わせています。「SAP S/4HANA Cloud Public Editionはデータの一元化やデータに基づく経営判断、法規制や事業変化といったビジネス変化へのタイムリーな対応、運用の省力化といった要件をすべて満たせるほか、連携システムの多さなどからベストな選択だと判断しました」（池内）。SAP S/4HANA Cloud Public Editionを選択したもう1つの理由となったのが、極力カスタマイズをしない導

導入後の成果

スムーズな連携により運用負担の軽減を実現

「導入後1年経過しましたが、今も標準機能のなかでの効率化を継続して進めている状況です。まだまだ完成形とはいえませんが、ERPを中心にさまざまなデータやシステム

いくことを大きな目標としています」とNECネットズエスアイ取締役執行役員専務の菊池惣は説明します。その実現に向けた課題となっていたのが、従来の基幹システムでした。独自業務に合わせたスクラッチ開発を重ねた結果、データは部門ごとに分断され、属人的な運用や意思決定の遅れが顕在化していたのです。「特に解決すべき課題となっていたのがデータの精度と粒度です。それまで社内予測で使っていたデータは各部門でチェックを経た月次データだったため、使う際には約1カ月遅れの精度になっていました。また各部門が個別にExcelで集計したデータが判断材料の1つとなるため、どの人がどの粒度まで見て判断したのかで大きなばらつきも出てまいります」とNECネットズエスアイビジネス変革統括本部経営システム本部統括マネージャーの池内俊勝は説明します。こうした課題を受け、NECネットズエスアイは2019年に次期

入・運用方法が、AI活用への近道となることです。SaaSでは、Excelの乱立などで発生しやすいデータの不整合が起きにくく、AIの学習・分析に適した構造化データを効率的に蓄積できます。このAI-Readyな環境が目指すべきデータドリブン経営に大きく貢献すると考えたのです。持続的な基盤となるSAP S/4HANA Cloud Public Editionの導入では、SaaSの価値を最大化し、将来にわたって拡張可能な基盤を維持するために、カスタマイズを最小限に抑え標準機能（ベストプラクティス）に業務を合わせるアプローチ「Fit to Standard」の徹底が求められました。Fit to Standardは、既存の業務プロセスをシステムに合わせる必要があります。そのため当初から現場の混乱が予想されましたが、「トップダウンの強い意志で乗り切ることになりました」と、菊池は当時を振り返ります。「全社的なデータをスピーディに共有して経営視点で分析するためには、どうしても従来の業務プロセスを変革しなければなりません。しかし当社が次のフェーズに進むためにはどうしても必要な方針であることを経営会議で確認しました。社員や現場には絶えずそのメッセージを発信しながら、標準機能を利用した業務の効率化

間連携が非常にスムーズに行えるようになり、初めて迎えた年度決算は大きな問題もなく無事に完了しました。作業者の習熟および決算のスピード化に関しては今後AIを含めた対応でカバーする予定です」と菊池は語ります。インフラ管理やセキュリティ、バックアップといった保守運用が不要となったことでIT部門の運用負荷も大幅に軽減しました。SAPのベストプラクティスを活用した業務プロセス統合

経営プラットフォームの構想を策定。「経営判断に直結するデータの起点は基幹システムである」と位置付け、段階的な刷新に着手しました。具体的には、CRM統合や全社データ基盤整備を経て経営視点で業務プロセスを統合する基幹システムモダナイズを進めることにしたのです。「今回の基幹システムモダナイズは、NECグループ自身の実践知である『クライアントゼロ』として、その成功要因や失敗要因を抽出・形式化することにも大きな意味があります。そこで先行して基幹システムの刷新に取り組んだNECやグループ企業のメンバーも巻き込みながら、導入期間や稼働後の運用対応などの知見とノウハウを集約し、お客様に還元したいと考えていました」（菊池）。2022年、NECネットズエスアイは新たな基幹システムの移行先を、将来の業務変革とAI活用を見据えてクラウドを前提条件とし、最終的な選定作業に入りました。

を模索していきました」（菊池）。Fit to Standardを進めるため、NECネットズエスアイは業務を熟知した各部門エース級のメンバーと、CIO、CFOといった経営トップも加えたプロジェクト体制を整備。現場からの要望や課題を週次で行われる会議で共有しながら、プライオリティを明確にした計画の推進を行いました。最も苦労したのは「SAP S/4HANA Cloud Public Edition導入後のIT部門と業務部門の役割変化を受け入れてもらうことでした」と池内は振り返ります。「導入後、業務部門は“利用者”から“プロセスオーナー”となり、標準機能に合わせた業務ルールの変更などを主導する立場となります。我々は各部門で選定されたキーマンとともに業務が標準機能で対応できるかの判断や、対応できなかったものを補助機能としてSAP BTPで連携する作業などを、現場の理解や浸透度合いを確認しながら進めていきました」（池内）。2023年4月にスタートしたSAP S/4HANA Cloud Public Edition導入プロジェクトは、社員トレーニングも含めて2025年5月に完了。グローバル標準に合わせた新たな基幹システムが本番稼働を迎えました。

と、リアルタイムなデータ活用でビジネスモデル変革への第一歩を踏み出したNECネットズエスアイ。今後はAIの活用を前提に意思決定の迅速化や業務の自動化・省力化を進め、さらなる効率化と生産性向上を目指していきます。あわせて、NECと連携しながら、SAP S/4HANA Cloud Public Editionを中核とした経営プラットフォームの高度化と、その実践で得られた知見をお客様への価値提供につなげていく考えです。

NEC ビジネスアプリケーションサービス統括部
E-mail: nssc-cs@sap.jp.nec.com

- このカタログの内容は改良のために予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
- 本製品（ソフトウェアを含む）が、外国為替および外国貿易法の規定により、輸出規制品に該当する場合は、日本国外に持ち出す際に日本政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。詳しくは、マニュアルまたは各製品に添付しております注意書きをご参照ください。
- 記載の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。